

## 画狂老人卅（まんじ）さんを御存知ですか？

突然何のこっちゃ？とお思いでしょうが、江戸時代末期の浮世絵師であり、彼の作品は誰でも見たことがあると思います。富士山の絵が有名ですよ。私は最後の作品「富士越龍図」が良いなと思います。彼の話はまた後ほど。

さて2021年は引き続き、新型コロナウイルスのせいで登山件数も少なく、そのおかげというか大阪労山の登山事故は激減しました。それは喜ぶべき事なのでしょうが、その反面、山岳活動が低調になり、登山技術の継承・研究できる力が削がれてしまいました。継続しなければ発展は無いと思います。

そんな中、大阪労山の過去20年の事故をまとめた**事故事例集が完成**しました。しかし、この本には事故をなくす「答」は書いてありません。不親切な本ですよ。自分で考えなきゃ「答」は出てこないし、正解も教えてはくれません。

事故対策は、まずは事故を知ることです（事実の把握）。そして原因の推定。原因もいろいろ考えられ特定が難しいかも知れません。その主な原因について対策案を決め（PLAN）、実行し（DO）、その対策案の効果があるか検証（CHECK）し、改善すべき事は改める（ACTION）。このサイクルを回すのが「答」だと思います。これができない会は、また事故を繰り返すと思います。

事故事例集は「事実の把握」の手段として活用し、皆様には**探偵になったつもりで、原因推定**そして**PDCA**を回して欲しいと思います。

さて卅さんの作品には富士山の絵が多く、特に有名なのが「**富嶽三十六景**」にある大波と小舟の向こうに小さく富士山が見える浮世絵が有名です。又の名を「葛飾北斎」と言います。80歳で火事に遭い全財産を無くしても絶望すること無く、江戸から240km離れた信州に4度も通い天井絵を描くという新しい事にチャレンジしました。江戸時代の人には珍しく90歳まで生きたのですが、「あと5年生きながらえたら達人になれる」と言ったとか。

大阪労山にも山狂〇人は多くいると思います。年齢は関係ないです。95歳で達人になりましょう。そして初夢は「一富士 二鷹 三茄子」。良いお年を